

航空祭鼓膜振るわすF15

佐藤 哲夫

レトルトをひと手間かけて母の味

竹本 タエ子

平凡な生活こそが生きる糧

磯部 佳子

落とし穴しっかり者もよく落ちる

田中 たづ子

退職し曜日戸惑い朝が来る

坪郷 英美子

こうくうさいこまくふるわすえふじゅうご

さとう てつお

れとるとをひとてまかけてははのあじ

たけもと たえこ

へいぼんなせいかつこそがいきるかて

いそべ よしこ

おとしあなしっかりものもよくおちる

たなか たづこ

たいしよくしようびとまどいあさがくる

つばごう えみこ

雨粒は宝石めきて合歡の花

光井 加代子

白靴や遺跡巡りの国分寺

金内 憲一

向ひ家の足音だけや霧襖

貞弘 和子

訥々と母恋ふる夫墓洗ふ

林 保江

木の芽風久遠の旅に出し夫

椎木 道子

あまつぶはほうせきめきてねむのはな

みつい かよこ

しろぐつやいせきめぐりのこくぶんじ

かねうち けんいち

むかいやのあしおとだけやきりぶすま

さだひろ かずこ

とつとつとははこいふるつまはかあらう

はやし やすえ

このめかぜくおんのたびにでしつま

しいぎ みちこ

今まさに夢を掴みに行くところ
飛行機雲は空に突入

山口 正子

ポニーテールの朝日に揺れる登校日
窓べの春風ふわり頬吹く

原田 ヤスエ

初咲きの芍薬切れば花芯より
まどろみていし蜘蛛下がり来ぬ

藤井 美智子

かつて母と自転車であつたこの道を
今君と漕ぐ母となつて

賤間 星

岩の影紫陽花一花この酷暑
我も負じと朝の山道

森坂 達夫

いままさにゆめをつかみにいくところ
ひこうきぐもはそらにとつにゆう

やまぐち まさこ

ぽにーてるのあさひにゆれるとうこうび
まどべのはるかぜふわりほおふく

はらだ やすえ

はつぎきのしゃくやくきればかしんより
まどろみていしくもさがりきぬ

ふじい みちこ

かつてはとじてんしゃで来たこのみちを
いまきみとこぐははとなつて

ざいま せい

いわのかげあじさいいっかこのこくしょ
われもまけじとあさのさんどう

もりさか たつお

久しぶりの長電話セピアの色に染まっていく

西岡 悦子

あの頃の友には会えない美術館

吉野 俊夫

思い出は迷路

松下 満江

炎天にふと浮かぶアイス売りの鐘の音

賤間 由美子

父が見た風景も香月と同じ

池田 幸

ひさしぶりのながでんわせびあのいろにそまって

にしおか えつこ

あのころのともにはあえないびじゅつかん

よしの としお

おもいではめいろ

まつした みつえ

えんてんにふとかぶあいすうりのかねのね

ざいま ゆみこ

ちちがみたふうけいもかづきとおなじ

いけだ みゆき